

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

TEL : 03-3519-5181 FAX : 03-3597-5171 メール : jaera-homepage@elv.or.jp

URL : http://www.elv.or.jp/

環境省受託事業、業務終了

「平成26年度低炭素型3R技術・システム実証事業」

ELV機構が環境省から受託した「平成26年度低炭素型3R技術・システム実証事業」は、2月28日の業務報告書の提出をもって終了しました。ご参加くださった会員の皆様、関係者の皆様、誠にありがとうございました。

1. 事業概要

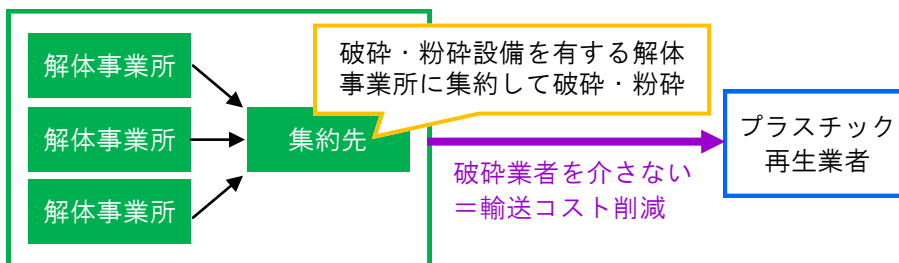
- 事業内容 解体事業所による使用済自動車からのプラスチックリサイクル
- 実施期間 平成26年10月～平成27年2月
- 対象地域 関東ブロック、中国・四国ブロック
- 対象素材 ポリプロピレン (=PP)
- 対象品目 バンパーのPP：フロントバンパー・リアバンパー
内装材のPP：ドアの内張りやダッシュボードなど

2. 参加実績・回収実績

ブロック	参加団体数	参加事業所数	回収重量
関東	6団体	32社	59,002kg
中国・四国	5団体	22社	26,630kg
合計	11団体	54社	85,632kg

3. 事業結果

- 回収したPPについて
回収したPPの一部をリサイクルし、リペレット品(*)として分析・評価したところ、硬い素材でありながら割れにくいといった特殊な物性を示していた。使用済自動車由来のPPは、価値の高いプラスチック素材であると言える。
- 事業性について
効率的な回収・輸送方法を検証するため、いくつかの回収パターンを試したが、すべて採算としては赤字であった。しかし、下図のような回収パターンをもとに作業コストの削減を図れば、事業性確保の余地があると考えられる。



*リペレット品：リペレットは、リサイクルペレットの略。
本事業においては、PPを溶解加工し、一定の大きさに切断して作成。

目次

巻頭言 1
トピックス	
環境省受託事業 1
産構審・中環審合同会議 2
ブロック長会議 3
東北ブロック会議 3
福島県次世代交流会 3
特別寄稿コラム 4
鉄スクラップ最新情報 5
行事予定・お知らせ 6
編集後記 6

巻頭言

26年に入社した、18歳の新人フォロー研修を開催しました。早いもので1年立とうとしています、来年成人式を迎えます。テーマは社会人としてこれまでの振り返りとどの程度成長してきたかこれから更に成長していくために何が必要かを討議しました。5名の新入社員の方も積極的に意見を伝えていました。また、組織人として必要なことの講義を行いました。

1. 報告・連絡・相談
2. コミュニケーション

会社としても若い方の未来もありますし、人として、仕事とは何か常に教育に力を入れ、これからは新入社員の方が入社して良かったと思える会社づくりを目指します。また、今年度開催される自動車リサイクル制度講習会にも参加する予定です。

(広報部会 伊地知 志郎)

産構審・中環審 第38回 合同会議が開催

平成27年3月25日、産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会自動車リサイクルワーキンググループ・中央環境審議会循環型社会部会自動車リサイクル専門委員会による第38回合同会議が開催されました。

今回の議題は、「自動車における3Rの推進・質の向上」についての論点整理です。

自動車における3Rの推進・質の向上に向けた取り組みの背景として、自動車リサイクル制度の導入後の使用済自動車全体のリサイクル率は大きく向上し、100%に近い水準を達成したと評価される一方で、今後は政府として第三次循環基本計画に掲げられているように ①リサイクルよりも優先順位の高い2R(リデュース・リユース)の取組強化や②リサイクルの質の向上を推進していくこと、また、次世代自動車の使用済自動車としての排出が拡大する中で ③レアメタルの回収等のより高度なリサイクルや使用される素材の多様化への対応が求められています。

使用済自動車のリサイクルを進めていく中で自動車の3Rの推進・質の向上を通じた環境負荷の低減・資源の有効利用と、ユーザー負担の軽減が同時に達成される様なモデルを作り上げることを方向性としています。

1. 環境配慮設計・再生資源活用推進による解体・破碎段階でのリユース拡大・リサイクルの質の向上

「リユース拡大・リサイクルの質の向上と収益性向上の好循環」を実現するためには、自動車製造業者による環境配慮設計の推進や再生資源活用拡大を促進することが重要である。また、解体業者と自動車製造業者の相互のコミュニケーションにより環境配慮設計の効率的な導入や情報の提供を進めていくべきではないか。

2. 2R(リデュース・リユース)の推進

自動車における2Rの推進に当たっては、部品リユースを進めることが重要である。リユース・リビルド部品の利用について、更なるユーザー理解の促進に取り組むとともに自費修理・保険修理におけるユーザーの行動や解体業者・整備業者・損害保険会社における課題等を整理した上で、積極的にリユース・リビルド部品が選択される環境を整備していくべきではないか。

3. リサイクルの質の向上

① 自動車リサイクル全体の最適化を通じたリサイクルの質の向上

マテリアルリサイクルを実施するに当たっては、回収のタイミング、収集方法、再資源化方法等によって得られる再資源の質やコストが大きく異なる。特にレアメタルやプラスチック、ガラス等の現段階ではリサイクルの収益性の乏しい素材について、どのようにビジネスとしてマテリアルリサイクルを進めていくかが課題。

② 3Rの推進・質の向上の進捗のモニタリング・評価について

③ フロン類の回収・破壊の方向性について

4. 次世代車／素材の多様化への対応

① 次世代自動車のリユース・リサイクルに関する課題の整理

② 素材の多様化への対応

以上の内容で質問・意見交換され、3Rの質の向上のためには、自動車製造業者からの情報提供と共有が重要であること、技術開発等についても広く利用できるシステム作り、同時にユーザーへの理解を進めていく必要がある等の話が出ました。

次回は、4月17日、①自動車リサイクル制度の安定かつ効率的な運用、②今後の自動車リサイクル制度のあるべき姿について議論されます。

第3回ブロック長会議を開催、全国のブロック長が集結



2月24日(火)、ELV機構本部事務局にて、第3回ブロック長会議を開催させていただきました。参加者は、全ブロック長(石上北海道ブロック長、三枝関東ブロック長、金森中部・北陸ブロック長、高野近畿ブロック長、古谷中国・四国ブロック長、伊地知九州ブロック長、松田沖縄ブロック長)、正副代表理事、事務局の総勢14名。

今期のブロック長会議では、前半の時間をいただき、「機構の創設から現在まで～何を残し伝えたいか～」と題し、ご講演をいただいております。今回は、ELV機構の前顧問である今城高之様を講師としてお招きしました。経験豊かな今城様のお話から、参加者皆に全国業界団体の重要性などが伝わり、今後私たちが活動するうえで非常に大切なお話を聞く機会をいただきました。

今期のブロック長会議における最大のテーマは、「定期的な開催」です。各ブロック、部会、委員会などの情報を共有し、ブロック、地域団体、会員さんの声が届く場になればと思っております。また、会議では、近況報告を重要視しています。なぜならば、各ブロックの会員さんの情報を伝えていただける場だからです。今後、ブロック会議の定期的な開催を協議していき、地域団体、会員さんとの意見交換の場を増やしていきたいと考えております。今期のブロック長会議を振り返って来期の方向性を議論する中で、情報集約・情報発信に関して何らかの仕組み必要であると感じました。

私たちブロック長の役割は、地域の適正処理の推進と不適正処理の撲滅です。また、一社では取り組むことが難しいような活動に関して、連携して取り組んでいくことで、各地域の活性化につながればと考えております。ブロック全体で様々な議論がされ、新たな一歩の一助になれば幸いです。(ブロック長会議長 平地 健)

東北ブロック会議を開催



平成27年3月5日、仙台市内にて河村代表理事を迎え「日本ELVリサイクル機構 第4回 東北ブロック会議」を開催しました。中でも東北6県における各県の近況報告で、厳しい経営環境の実態が浮き彫りとなりました。使用済自動車の減少、それに伴う仕入れ価格の高騰は各県共通した悩みであり、追い打ちを掛けるように鉄スクラップ市況は低迷を続けています。当面、鉄スクラップ相場の回復は見込めないとの情報もあり、各地域団体長はこの厳しい難局をいかに乗り切ろうかと困惑気味でした。また東北ブロック恒例の「地域団体交流会」が、今年は宮城県が主催となり開催されることが決定しました。

福島県、次世代交流会を開催



福島県自動車リサイクル協同組合は去る3月7日に市内ホテルにて第1回の次世代交流会を開催しました。

これは激変する業界で出来るだけ早い時期に、組合運営を若い人たちにスムーズにバトンタッチできるよう、次の時代の若手経営者の交流を目的としたもので、各社より13名の後継者が集まりました。

仙台から平地東北ブロック長を招き、「社長になった経緯と今の苦悩」がどういうものかの講演をいただき、その後の懇親会では参加者全員がちゃんこ鍋に舌鼓をしながら、アルコールの力も借りつつ思い思いにこれからの仕事に対する意欲を話し合っていました。

廃棄物に掛かるコストの「見える化」

皆さん、こんにちは。沖縄国際大学の木村眞実です。

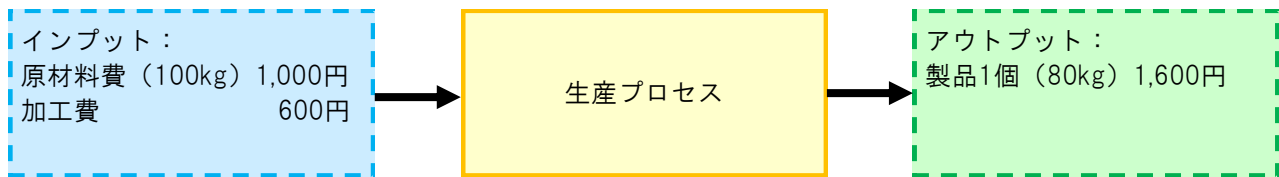
ところで「廃棄物にどれだけのコストが掛かっているか？」を把握していますか？いいえ、廃棄物の処理費用ではありません。廃棄物に掛かる原材料費と加工費のことです。

これをマテリアルフローコスト会計(MFCA)で説明します。MFCAは原価計算ですが、通常の前価計算とは計算構造が異なります。

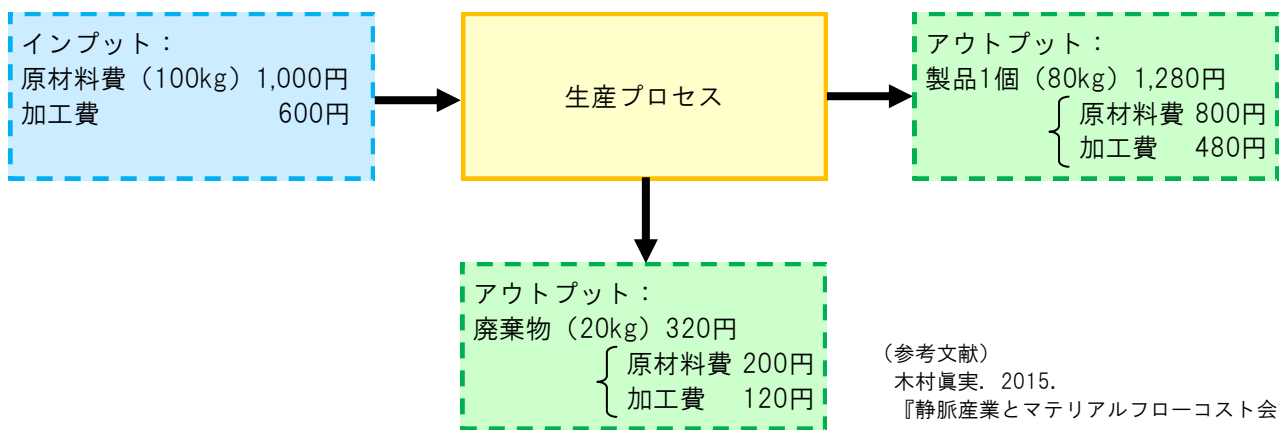
例えば、原材料費1,000円と加工費600円で、製品1個をアウトプットする生産プロセスを想定します。そこでの原材料の投入量は100kgで、最終製品は80kg、廃棄物は20kgとします。

— 図表 —

【通常の前価計算】



【MFCA】



(参考文献)
木村眞実. 2015.
『静脈産業とマテリアルフローコスト会計』白桃書房.

通常の前価計算では、インプットした金額の原材料費1,000円と加工費600円の合計1,600円を製品原価として計算します(図表上)。

しかし、MFCAでは、原材料費1,000円と加工費600円を、原則、製品と廃棄物の重量比によって配分します。つまり、原材料費1,000円を、 $1,000円 \times 80kg \div 100kg$ の計算式によって製品(80kg)へ800円配分し、 $1,000円 \times 20kg \div 100kg$ の計算式によって廃棄物(20kg)へ200円配分します。同様に、加工費600円を、製品(80kg)へ480円、廃棄物(20kg)へ120円、配賦します。

MFCAの図表を見ると、廃棄物には320円が掛かっていることがわかります。つまり、廃棄物と一緒に「原材料費と加工費」も捨てていると言えます。

MFCAを使って「見える化」を試みては如何でしょうか。これによって、生産プロセスや自社生産部品の見直しへとつながるのでは…と思います。なお、資源の利用方法を提案するMFCAもあります。またの機会にお話しできればと思います。



著者紹介

木村眞実(きむら・まみ)博士(商学)。沖縄国際大学 産業情報学部 准教授。専門は会計学。院生時代に外川健一博士(現、熊本大学)と国内外のフィールドを調査。2008年九州大学院 経済学府 博士後期課程 単位取得退学。2013年より現職。

■ 3月第3週(16日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供 / 日刊市況通信社]



3月16日の国内スクラップ炉前実勢価格

		H2	気配
関東	北関東	23,500 ~ 24,500	様子見
	南関東	23,500 ~ 24,500	様子見
名古屋		24,000 ~ 24,500	様子見
関西	大阪	24,000 ~ 25,000	様子見
	姫路	23,000 ~ 23,500	様子見

韓国ミルなど日本玉購入を検討 韓国向けH2・FOB23,000円回復へ

鉄スクラップ輸出市場は、先週末にかけて韓国、台湾、ベトナム勢が日本玉に対して引き合いを出した。韓国ミルでは現代製鉄、東国、ポスコP&Sなどが先週末にかけて日本側へオファーを要請しており、週末から週明けにビッドを提示するものと見られる。商社筋によると韓国ミルは「成約数量などの条件によりH2でFOB1トン23,000~3,500円程度の打診を検討している」という。一部個別交渉では先週末に同23,500円どころで成約があったもようだ。韓国ミルの在庫が減少する中、日本玉が米国玉に対して割安なことや関東鉄源テンドーがH2平均FAS22,820円と直近の韓国向け成約価格に対して高値となったことも成約価格を引き上げる材料となっている。

日本側のオファー価格の多くは同24,000円以上とされるが、韓国ミルは高値成約を避けたい構えで、日韓間の思惑には依然として差がある。また、日本玉に対する放射線対策が双方の合意に至っていないことも商談成立のネックとなっている。

一方、為替が円安進行したことにより、ドル建てで契約する台湾、ベトナム勢も割安感がある日本玉の購入を検討している。鉄スクラップ相場に先行き不透明感が続く中、需要国の動きが注目される。

【関東地区】電炉筋、輸出市場や浜値の動向様子見

関東地区では、電炉筋が輸出市場や浜値の動向を様子見する姿勢を強めている。為替相場が円安に振れたことから、円換算した輸出価格が上伸する動きも出ているほか、浜値が上げ戻す動きも出ており、電炉各社は今後の動きを見極めたい意向だ。H2炉前実勢価格は22,500~3,500円中心、高値24,500円見当。H2浜値は21,500~2,500円中心となり、中心値の高値が切り上がっている。

【東海地区】需給均衡ながら高値調整下げも

名古屋地区の電炉メーカーは7週連続据え置きで、様子見スタートしている。電炉筋の購入価格に変化が見られないことで、業者筋の仕切り値もここ1カ月半ほど値動き見られず横ばいで推移している。H2炉前実勢価格は24,000~4,500円中心。地区需給は特殊鋼メーカー中心ながら堅調な生産が続いているため消費増にあり、均衡を保つ形にある。それでもなお緩く、輸出の引き合いも弱いことで、足元は高値の調整下げが進む格好にある。

【関西地区】需要減退から先行きに対する警戒は強いまま

大阪地区の鉄スクラップ市況は弱含み。電炉筋による一部制限買いが他の入荷を特別に押し上げてはいないものの、月後半からは西送りの流入に加え、足元の在庫事情を映し、需要減退に拍車がかかるものと見て、先行きに対する警戒は強まったままだ。H2炉前実勢価格は24,000~5,000円。姫路地区のH2炉前実勢価格は23,000~3,500円。姫路以西も需要はさほど高くなく、弱保合が継続する気配となっている。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、3月16日午前時点のもの)

行事予定

■ 4月の主な予定

4月9日(木)

- ・ 第1回 広報部会

4月10日(金)

- ・ 近畿ブロック会議

4月17日(金)

- ・ 産構審・中環審
第39回 合同会議



お知らせ

■ 会員数(2015年3月時点)

総数 637社 / 会員 609社、賛助会員 28社

■ 自動車リサイクル士合格実績(2015年3月時点)

資格の種類	平成 25年度	平成 26年度
自動車リサイクル実務士初級 (引取・フロン類回収工程)	4名	37名
自動車リサイクル実務士上級 (引取・フロン類回収・解体・破碎工程)	15名	59名
自動車リサイクル管理士	626名	194名

CHECK!

「平成26年度貴金属類の共同出荷事業」の事業報告書がELV機構ホームページに掲載されました。ぜひ以下のURLよりご確認ください。

<http://www.elv.or.jp/O-O-709.html>

編集後記

「今年の3月は、いつもの3月とは違う」といった囁きを耳にする今日この頃です。もちろん天候のことではなく、使用済自動車の発生についての不安を指しています。自動車業界において年度末は、年間を通して一番の繁忙期でもあります。本来は多量の使用済自動車が発生するはずですが、しかしながら繁忙期にもかかわらず台数が伸び悩んでいる事業者は多く、業界の先行きに不安を感じています。▼「果たして実際はどうなのか？」この案件は皆さんの重大な関心事であるかと思えます。我が広報部会でもこの件に関しまして調査を行い、現状の報告ができればと考えております。▼さて、3月17日にNPO法人「持続可能な社会をつくる元気ネット」の鬼沢良子事務局長と対談を行いました。鬼沢事務局長はリサイクル全般、地域の環境保全を中心に活動されており、産構審にも委員として参加されておられます。この度はリサイクル業界の諸氏とはひと味違った視点でのお話を伺うことができました。この模様は次号のニュースレターにてご紹介致します。楽しみにお待ちしております。

(広報部会 部会長 永田 則男)